



森林は、土砂崩れから私たちを守ってくれたり、酸素を作ってくれたり、水をきれいにしてくれたりして「ぼくたちの生活に欠かせないものなんだな」と思いました。そしてアマゴつかみの活動で、命の大切さが分かりました。これからも「いただきます」と「ごちそうさまでした」いう、始めと最後の挨拶は絶対に言いたいと思います。また、今回はアマゴだから串でさせたと思います。他に牛や豚、大きな魚とかだったら絶対に串ではさせなかったと思うし「本当に命は大切なんだなあ」と思います。そしてサーチザツリーの活動で「もみじだけでもいろいろな種類があって、それぞれの木に、いっぱい魅力があるんだなあ」と思いました。そして、火起こし体験をしてマシュマロを焼く活動では、今はボタン一つでできることが、昔は30分以上かかるということが分かり「昔の人はすごく大変なんだなあ」と思いました。木をこすってまさつで火をつけるやり方をやってみたいと思いました。

森林がなくなると川とかの水が汚いままになって、水が飲めなくなるかもしれません。また、森林がなくなると、二酸化炭素が酸素にならなくて、二酸化炭素を人間が吸うと死んでしまうことがあるので、森林はないとだめなものだと思いました。

火起こし体験を試みたら、火打石であんなに時間がかかったから「火打石じゃなくて、棒をまわして火をつけるほうの火起こしの方法だと何時間かかるのかな」というふうに思いました。サーチザツリーを試みたら、とても難しかったです。サーチザツリーをして分かったことは、木の種類がたくさんあるということです。種類がたくさんあることは知っていましたが、知らない木の種類をたくさん見つけたので「いろいろな種類があるんだな」と、思いました。

この学習で森林の大切さや働きの分り、とてもよかったです。みんなでする活動の中では、サーチザツリーが楽しかったです。アマゴつかみでは命の大切さを改めて実感しました。だからこそ私たちは好き嫌いをせず、命に感謝をしていきたいと思ひます。他にも焚き火をしてマシュマロを焼いたのも楽しかったです。松ぼっくりや森の中には入れなかったけど、楽しくけんかもなく、活動できてよかったです。これからも私たちの生活を守ってくれる森林を大切にしたいと思ひます。

児童の感想 (抜粋)

アマゴつかみでは、アマゴをつかんで刺したものを焼いてもらって食べました。「これからご飯を食べるときには、ちゃんと心をこめて『いただきます』を言っていこう」と思いました。サーチザツリーでは、お題の木の名前を探すゲームをしました。探す途中に「自然はすごいなあ」と思いました。火起こし体験では、火打石で綿に火をつけたり、うちわであおいたりしました。「今は、ボタン一つで火がつくけれど、時間をかけて火をつけるのはとても大変だなあ」と思いました。自然の家には動物の模型がありました。「葛川にはこんな動物がいるのか」と思っ、また調べてみたいと考えていました。

まず葛川で思ったことは「自然に囲まれた中にバスがついたなあ」と思いました。特にバスから見た前には、すごく大きな木が生い茂っていました。アマゴつかみでは、串を刺す時に「かわいそう」と思いましたが「これも学習だ」と思っ、覚悟を決めて串を刺しました。アマゴを焼いてもらっている間、サーチザツリーをしました。班長は「こっち！」「あっち！」「早く！」と言っていました、一つ一つの木に「小さい秋」があったので、それを見るのもおもしろかったです。サーチザツリーが終わった時、ぼくたちの班がたくさんの木を見つけていたのですごくうれしかったです。アマゴが焼きあがった時、初めはとりあえず「いただきます」と言いましたが、食べてみるとちょうど良い焼き加減で、アマゴのパリパリした食感が口の中に広がりました。2分とかからないうちに完食しました。最後は感謝の気持ちで「ごちそうさま」と言いました。火起こし体験では、なかなか火がつかせませんでした。しかし、やっとの思いで火がついた時、感動でいっぱいでした。その後残った火種で、マシュマロを焼きました。すごくおいしかったです。また葛川へ行きたいです。

火起こしの時、火打ちがまに石をこすりつけても全然火がつかなかった、どうしたら早く火がつくのかを考えました。また、火が消えそうになったので、消えそうな火をもう一回つけるにはどうすればいいのか考えました。アマゴつかみの時、アマゴを串に刺す時に、言われたところに刺せなかった、アマゴを刺すのは難しい」と思いました。

